
ネメシスとして幻想入り

xhanku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

不定期更新です。あと、作り直しましたー^^ ;

ぶろろーぐ(前書き)

作り直しましたー^^ ;

この回だけちょっと変ですが、次からは直します。

「ガチッ！」

ん？金属音？

なんで立ち上がったときに金属音？

足元には草とか土とかしか無いは……ず……

うん、無いよね？足元に危険な鉄の砲筒とか沢山の筒が着いた回転する鉄砲なんて、存在してないよね？！
M202ミニガン

あれか？もしかしてあれなのか？！『転生しちゃいましたー、升選チートばせると面倒なので、テキストにやっちゃいました』ってやつなのか？！

……とりあえず、拾っておこう。

「ステインガーマサイルを拾った。」

・・・どうしよう、頭が付いていかない・・・Help Me
E E E R I N N N N ! ! ! !

あ、ついノリで友達の真似しちゃった

じゃねえ！そうじゃねえ！有名なホラーゲーのバオのアイテム拾ったときのテロップみたいなのが流れたけど？！

ってことは、探せばあの有名な回復アイテムもあるってことか？

とりあえず、探してみよう

「ハーブを拾いますか？」

> はい いいえ

あった……しかも今度は選択肢付きで……

とりあえず、『はい』を選ぶだろ。

「ハーブを拾いました。」

うお！なんだか面白くなってきたぞ！だけど、これどうやって使うんだ？

あ、なんか目つぶったら、やっぱりあの有名なバイのメニューが開いた。

……言いたいことは山ほどあるけど、とりあえず頭の鎮静用に、ハーブを

「ここでは使えません」

え？何これ？ハーブって回復アイテムでしょ？あ！そっか！調合すればいいのか！なら他にも探さなきゃだな！

ハハハ！俺ってばてーんさーい！

じゃあ、もう一つの鉄砲を取って「M202ミニガンを拾いました」「さっそく薬草探しだ！

・・・よし、とりあえず現実逃避はこのくらいでいいだろう。

何？このロングコートと巨体は。

しかも堅くて屈強だし。

あと何気に腕に触手が入ってるんだけど。気持ち悪！

ん？この触手って、尖ってないか？

ロングコート＋巨体〓巨人

巨人＋触手〓この組み合わせはどう考えても『^B ^O ^W生物兵器』

B・O・W＋ロケラン＋ガトリング・・・追跡者？

絶対そうだ！そうに決まってる！じゃなきゃこんな物やこんな体をしているワケがない！

よし！それで確定！この話はもう終わり！じゃあ目的を戻してハブ探しだ！

では！出発だ！わはー！おいしそうなのがいたのだー！・・・誰？！

え？何もいなくね？じゃあ誰の声？

「ここなのだー！」うーん、頭をひねっても答えは出ないなあー
「無視するなー！」だって、ここには俺と空飛ぶ幼女しかいないんだもん

「うっ、食べてやるのだー！」

「何を食べるの？」

「あーやっと返事してくれたー！じゃあ早速、いただきまーす！」

え？ちょー！なんでこっち来て・・・痛ッ！腕を噛むんじゃない！痛いってば！イタタ！

ぶろろーぐ(後書き)

相変わらずの駄文カー

ご指摘、クレーム、感想、アドバイス、その他もろもろ何かありましたらよろしくお願いいたします……

毎月7日は「そーなのかー」（前書き）

サブタイはいつも適当です。

あと

「DANGER!この小説は、駄文という物が含まれています。T
ウィルス以上に危険です。」

毎月7日は「そーなのかー」

腕を噛まれて数秒後

S i d e N E M S I S

「うえ〜・・・不味いのだ〜」

目の前に頂垂れる少女を見ながら心中で『ザマァーWWW』と思っ

ている。

だが、流石に可哀想に思えたので、何か探してみることにした。

「ハンバーガーを拾いますか？」

> はい いいえ

現実から目をそらし、そのハンバーガーを拾い、項垂れる少女に渡した。

「これなら食えるだろ、食べてみ……奪い取るなよ」

「おいしいのだー！」

「そうか、それならいいんだ」

ちょっとカッコつけて喋ってみる。

「そういえば、鬼さんはなんて名前なのだー？」

「ん？鬼？」

聞き捨てならないセリフ

「うん！だつて、人間の顔じゃないもん！……ちよつと怖い顔だから鬼なのだー！」

少女のことをよく見てみると、赤い瞳で、金髪にリボン、服装は黒が主体

全体的に西洋風の美少女。

そんな美少女に満面の笑みで「怖い顔」と言われる。

「ああ、組長さん……いや、園長先生……あなたの気持ちが分かった気がする……」

どっかの幼稚園の組長の気持ちを理解してしまった。

「ねえねえ、名前はなんなのだー？」

「え？あー」

迷う、激しく迷う・・・できるだけカツコイイ名前で行きたいところだが、流石にこの容姿では無意味

ここは、本家を借りて、本当のことを言おう・・・

「俺は、ネメシちゅ・・・」

少女との間に、気まずい沈黙が流れる。

(やべえ、噛んだ・・・どうしよう!)

「・・・ネメシスさんなのかー、じゃあまたなのだー」

少女が気まずい沈黙を破り、訂正してくれた。

そして、食べ物が無くなったことが分かり、その場を去っていった。

少女は、去り際に、頬をニヤつかせていた。

「第一印象は大事なのに、それを思いつきりダメにしてしまったなあ・・・」

なんとも言えない気持ちが、胸の奥でとぐるを巻いている。

そんな気持ちを忘れるため、またハーブ探しに戻った。

その後、赤色と黄色のハーブが見つかった。

最初に手に入れた緑色のハーブと調合し、薬を作った後、その辺を
テキトーに散策することにした。

毎月7日は「ソーなのかー」（後書き）

・・・まずい、前作とのデジャヴな部分が・・・

やべえな・・・これなら削除する前の方がよかったかもしれない

今になって後悔

クレーム、ご指摘、感想等々 お待ちしております。

ネメシスとは女神の名前だそうだ。(前書き)

サブタイはいつもどおりテキストー

あーそうそう、”WWW”とかの表現が嫌いな人は、ブラウザバックをオススメします。

ネメシスとは女神の名前だそうだ。

Side Nemesis

調査したハーブ（赤＋黄＋緑）をを捨てようと思ったが、やはり今後のためにとっておくことにした。

「しっかしあれだなー・・・なんでネメシスになってんだ？俺」

「説明wwwしようwww」

「あ、じゃあお願いし・・・ねえよ！しかも”くさってる”の意味違ってるし！」

「え?!www」

つい呟いてしまった一言に反応したゾンビ（？）が、近くの茂みから出てきた。

ボロボロの服、所々欠けている皮膚、うめき声、完全に生ける屍である。

それなのに、”腐ってる”が”草ってる”になって、”生ける芝生”になっていた。

「とうとうより、説明ってなんだよ・・・」

「ん？WWWあーWWW簡単WWWにWWW言うWWWとWWW君WWW転生WWWしたWWWのWWW」

サラッと衝撃発言（確定事実）を言い出したゾンビ（？）

「は？転生？いや・・・そういうのはみりゃ分か・・・っていたんだが、まさか本当だったとは」

衝撃発言に衝撃を（少し）受けたネメシス

「WWWあとなWWW升WWWはWWW入ってWWWないよWWW」

「ははは！・・・は？」

だんだん発音が人語に似てきたゾンビが、更に衝撃な発言をする。

「だからWWW升^{チート}WWWはWWW入れられてWWWないWWWのWWW俺WWWもWWW転生WWW者WWWだからWWW分かるWWW」

「そつなのか」

「うんwwwそのwww追跡者wwwのwww能力wwwがwww
ついでるwwwだけwww」

・・・ネメシスは、その追跡者の能力を知らなかったため、ゾンビ
(?)に聞いてみた。

「おkwww追跡者の能力は

なるほど、説明になると草らないのね・・・

追跡者 (N e m e s i s)

B・O・W・「タイラント」の性能向上のため、新開発した寄生型
B・O・W・「N E -」、通称「ネメシス」を寄生させた新型。

基本性能はタイラントと変わらないが、ネメシスの寄生により知能が格段に上昇することで、「より複雑な任務を自己の判断で継続的に遂行」「ロケットランチャー等の武器使用」などが可能となった。また、回復能力の向上作用により、タイラントが危機的状況に陥る事によって起こる「暴走」を抑える役目も持っている。

N E M E S I S - T型は、3つの形態を見せる。

第1形態

追跡者の最初の姿。

人間を大きく上回る巨体を持つ。

全身に防弾・対爆仕様の黒いコートを纏っているが、これは暴走を抑えるための拘束衣という面も持っている。

コートから露出した部分には、所々にネメシスの触手が巡る怪物じみた外見が確認できる。

素早く走りまわり、突進しながら殴りかかる、首を絞めた後に投げ捨てるといった攻撃を仕掛けてくるが、たまに首を絞めたまま腕から触手を繰り出してくることもある。

その硬度は人間の頭部を貫通するほどで、これを受けると即死してしまう。

また、追跡者の至近距離から遅い攻撃をすると、素早く横移動して回避する。

第2形態

激しい戦闘により拘束衣は破れ、繰り返し与えられる肉体のダメージによりネメシス自体が肥大化、半ば暴走状態になりかけている。

腕部を縦横に巡っている触手により武器の使用が不可能になり、より激しい攻撃性を示すようになる。

即死攻撃が無くなり、攻撃力も第1形態より若干落ちているが、体力は高まっている。

右腕から垂れ下がった触手により突いたり掴んだり叩き付けたりといった攻撃をしてくるが、第1形態に比べ動作が大振りなので戦いやすい。

第3形態

度重なる戦闘と特殊な薬液により限界を超えるダメージを受けたタ

イラントの肉体とネメシスが、お互いに暴走状態になり肥大化。

頭部や手足を失った肉体を異常発達したネメシス本体が補充し、仰向けの状態で四足歩行を行う。

腹部からは巨大な肋骨が牙のように突き出し、薬液の毒素により巨大な水疱が浮き上がっている。

最早知性を感じさせない外観になりながらも、任務遂行のためジルに迫ってくる姿はまさに「復讐の女神」の名に相応しい。

触手による攻撃のほか、体液を飛ばして攻撃してくる。

この第3形態はアメリカ軍特殊部隊がラクーンシティに持ち込んだコードネーム「パラケルススの魔剣」というレールキャノンを使わないと倒せない。

「で？そのNEMESIS-I型ってのが俺なワケ？」

「じもつともWWW」

「いや、そんなこと言われても・・・つか、NE・・・ってなんだよ・・・」

「それは

NE -

アンブレラのフランス研究所で開発されたミミズのような姿の寄生型 B・O・W で、通称「ネメシス」。

知能に特化しており、それ自体では何もできない。

他の T 生物の脊髄に移植されるとその体内の T - ウイルスを取り込み増殖、延髄付近に独自の脳を形成し、宿主の脳機能を乗っ取り知能を支配、同時に細胞賦活成分を分泌し再生力を高める。

しかし、寄生された生体に非常な負荷がかかるため、元から強靱な B・O・W でなければ耐えることができずに死亡してしまう。

「NE -」型のサンプルは、アークレイ山地の洋館の地下にある研究所にも届けられており、リサ・トレヴァーがその被検体となっているが、ネメシスは彼女の脳に寄生することなくその身体に取り込まれてしまっている。

「・・・聞きたいことは山々あるんだが・・・まず、これはどの情報だ？」

「え？WWWこれはWWWウィク「ストップ！ストップ！」WWWどうした？WWW」

ゾンビが、いけない発言をしそうになったので、それを防ぐネメシス鬼のようなネメシスが、屍であるゾンビを止める・・・中々にシュールな画が出来上がる。

「あWWWそうそうWWWこのWWW世界WWWはWWWほとんどWWWがWWW能力WWW持つてるWWWからWWW」

「え？まじか？」

「うんWWW俺WWWはWWW『生ける屍と芝生を増やす程度の能力』だっておWWW」

「あながち間違っではないな・・・」

（俺は・・・）

ネメシスは、自分の能力を探してみる。

『追跡する程度の能力』

『任務をこなす程度の能力』

「やっぱりか・・・しかも2つ・・・」

「どした？WWW」

「なあ、その芝生って消せないのか？イラっとくるんだが・・・」

「無理だおWWW」

「だよなー・・・いや、さっき止められたよな？」

「あれはWWWあれWWWだからWWW無理だおWWW」

我慢できなくなったネメシスは、頼み事してみたが、変な理屈で拒まれた。

「とりあえず、そのへんを散策するんだが、一緒に来るか？」

「あのWWW流れWWWでWWW何故WWWまあWWWいいやWWW
W行くWWW」

「ネメシスはゾンビを手に入れた」

ネメシスとは女神の名前だそうだ。(後書き)

ネメシスと打ち込む時、ほとんどタイプミスで”ネメイシs”にな
つちまうorz

あー・・・wwwって表現を使っちゃった・・・どうせ駄文だから
!:::;

クレームだってなんだって来いよ!受けて見せようぞ!

あ、でもでも、感想とか指摘とかだったら嬉しいなー・・・

落散ルノ（前書き）

メッルイイイイイクツルイスツムアアアアアス!!!

訳：メリークリスマス

この小説では、ギャグやウケを重視していきたいんだが・・・

とりあえず頑張って投稿していきます。

ちなみに、ゾンビの”www”表現は以後継続されていきます故に、
そのような表現が嫌いな方はブラウザBack！（キリッ

・・・をオススメいたします^^;

落散ルノ

生ける屍改め、逝ける芝生を仲間にしてから、かれこれ数時間

「つ、ついに森を抜けた」

「うはwww広いwww湖www」

目の前に広がるのは濃い霧に包まれた湖

森を抜けてからその湖が地平線のように広がっているので、広大であることは理解できる。

広い・・・ホントに広い・・・

ここでネメシスは何かをひらめく

「・・・そういえばさあ、お前って『生ける屍を増やす程度の能力』
つての持ってたよな？」

「うんwww芝生wwwをwww増やすwww程度wwwのwww
能力wwwもwww」

「その生ける屍を増やして進まないか？」

「無視wwwするなしwwwしかもwwwなぜwwwにwww」

ゾンビはスルーしたことを指摘し、応答ではなく疑問を返す

「いや、なんとなく」

「なんとなくwwwてwwwまあwww俺もwww使ってwwwみたかったwwwしwwwねwww」

とりあえず、ゾンビ地に耳を当て、目を瞑る。

見た目が屍なだけに、どこからどう見ても死骸になった。

「あたいの縄張りに入るなんて！いい度胸ね！」

そんな死骸を眺めていると、背後の湖の方から声が聞こえてきた。

「おい・・・おまえはd」うはwwwチルノwwwじゃんwww」

今度は死骸ゾンビの方から声が聞こえたから、またそっちに振り返ってみる。

「うはwwwホントwwwだwww」

「カワイユスwww」

「?www」

「(笑)www」

「大ちゃんwwwは?www」

・・・約20近くのゾンビが群れてチルノを見ていた。

「おい・・・これは一体どういうことだ？」

「あwwwネメシスwwwだwww」

「ホントwwwだwww」

「うはwwwテラキモスwww」

「全俺wwwがwwwそのwwwキモさwwwにwwwワロタwww」

「触手www」

人数と共にレベルアップしたウザさに耐えつつ、産みの本体ゾンビを探す。

・・・いた、物凄く見つけやすかった。

量産されたゾンビは顔がニヤついているにも関わらず、本体は笑っている。

すぐその本体の元へとネメシスは向かい、一発その腐った腹に拳を叩きつけた。

「グハwww貫通wwwしてるwww痛そwww」

「本体WWW」

「・・・おい、俺はあいつらも芝生が生えるなんて聞いてないぞ？」

・・・反応が無い

「WWW」

「おい」

・・・反応が無い

「WWW」

「おい」

・・・反応が無い、ただの屍のようだ。

「しょうg」アタイを無視するなああ！！！！」危なッ！」

「グハWWWテラ痛スWWWワロエナイ」

頭に殴りを入れて、永眠させようと思った矢先、湖上空にいたチル

ノが結晶のようなものを大量に飛ばしてきた。

いや、結晶のようで結晶ではない尖った硬いもの……冷たい……
氷だ

氷は未だに大量に飛ばされている。

そしてその氷が、量産ゾンビの集団にも襲いかかった

「ちょ W W W」

「痛い W W W」

「死ぬ W W W」

「生きる W W W」

「逝けよ W W W」

「ヤダ W W W」

胴体の至るところを貫通させられ、脆い部分はもげ落ちたりしていた。

その中で、頭を貫通させられた屍は、次々と再起不能になって、重
力に従い、地に倒れ伏していった。

「うはWWW死んでるWWW」

「俺らWWWはWWWとつくにWWW死んでるWWWだろWWW」

「そっかWWW」

一方、ネメシスの方はというと、本体の頭に被弾しないように気をつけながら、盾にしていた。

「ヒドスWWW」

「ふん！アタイを無視したことを後悔するがいいわ！『氷符』アイシクルフォール”」

今度は、まばらに飛ばされていた氷がまとまり、ネメシス達を囲むように飛ばされていった。

「・・・流石に少女を撃つほど冷酷じゃないしなあ・・・そうだ！」

またもやひらめいたネメシスは、盾にしていた^{本体}ゾンビを投げ捨て、「ワロエナイw」^{量産}ゾンビの集団の元へと駆けていった。

落散ルノ(後書き)

- ・とりあえず投稿・・・あんまし頭が回ってないから訂正するかも・・・

ク r (r y

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5420z/>

ネメシスとして幻想入り

2011年12月24日11時56分発行